



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.73

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6
東京スポーツ会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2014/8~2015/7のスローガン)

スポーツで元気な日本を創ろう!



原 点 へ

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重 森 仁

つゆが明ければ、灼熱の太陽が照りつける真夏がやってきます。その太陽にも負けない熱い戦いも始まります。全国中学校総合体育大会(全中)、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)、全国高等学校野球選手権大会(甲子園)……等々。私たち組合員も、暑さに負けず大会を盛り上げるために売店活動等で頑張ります。今年、全中は北海道・東北ブロックで、インターハイは近畿ブロックで開催されます。

さて、大会の舞台裏は如何でしょうか。東京オリンピック・パラリンピックのスポンサー契約では多額の金額が必要になり、日本のスポーツメーカーも戸惑いを隠せなかったことでしょう。お金を持たなければ、関われなことは寂しいことです。世界規模の大会はともかく、国内規模の大会は、各地を回って地域のスポーツ振興に寄与することが大きな課題の一つになっていることを踏まえ、より地域に密着した運営が求められていると思うのですが、大きなスポンサー企業が肩で風を切るような行動をする事に目をしかめてしまいます。今一度、原点に返り、運営を考え直してみたいものです。権利の代償に多額の協賛金を積まなければならない現状に、少なからず違和感を感じてしまいます。特に、国民体育大会においては、その流れが加速されつつあると思います。

日本体育協会においては、少ない予算の中で運営で、資金集めに苦慮されていることは理解できますが、オリンピックのスポンサー集めのミニチュア版になって欲しくないものです。全中、インターハイにおいては、教育的効果を勘案し、国からの補助等の増額を願うものです。スポーツ庁創設の効果を望みたいものです。

さて、我々組合員はどうでしょうか。原点を忘れていないでしょうか。大会での売店活動においては、大会を盛り上げることが一番です。もちろん経済活動ですから、利益の追求はあっていいのですが、剰余金は可能な範囲で地域のスポーツ発展に、今まで同様に還元すべきだと思います。さらに一步踏み込んで、組合主催のスポーツ教室の開催等「協賛金渡し」の範囲を超えてみたいものです。大会前後は日程的に厳しいものがありますが、後日、地域の大会とタイアップする手もあるでしょう。例えば、高知県組合では地元開催の竜馬マラソンにおいて、組合員が機械を持ち込み、ゴールタイムを刺繍してあげていて大変好評を得ていると聞きます。売店の還元金がこのような形で地域のスポーツ発展、町づくりに貢献すれば、売店活動も輝くものとなりましょう。大いに参考にしたいものです。



第16回定時総会 長崎県大会もうすぐですよ。

長崎県スポーツ用品協同組合

理事長 森 彰 夫

皆様、お元気にお過ごしでしょうか。昨年、45年ぶりに長崎で開催された「長崎がんばらんば国体」「長崎がんばらんば大会」が終了し、ほっとする間もなく本年10月22日～23日の2日間、第16回定時総会（大会スローガン「今だ！前向きに、がんばらんば！！」）が秋の庭園花盛りのハウステンボスで開催されます。全国総会に向けて焦りの気持ちだけが先行し、ただただ時間だけが過ぎる日々です。

約2年前から準備に取りかかり、皆様に満足頂ける素晴らしい大会を開催できればとの思いで計画してきましたが、もう間近にせまってきました。昨今の厳しい市況の中で今、私たちが何を考え行動していかなければならないのか、知恵をしばらく大会に参加して良かったと思ってもらえるよう組合員一同、追い込みをかけているところです。

研修会第1部は、継続されている女性参加型の研修に加え、佐世保市の商店街でバック販売店を営まれる傍ら地域活性イベントの火付け役としてご活躍の竹本慶三氏をお招きしパネルディスカッション形式で進めたいと考えております。

竹本氏は大型ショッピングセンターが郊外に出来たら、商店街がシャッター化するのではないかと不安の中で全国を見て歩き、地方都市の商店街が大型店の進出で寂れる例を実際に目の当たりにしてこられた体験を元にイベントでの商店街活性化を一念発起。「人が集まる場所には人は集まる」との考えを具現化しておられます。さまざまなイベントを仕掛けられ、活動を通じて出会いの場を提供されています。秋の「YOSAKOI させ

ほ祭」も竹本氏の企画のひとつで今では全国から174チームの参加をいただく一大イベントとなっています。

また、研修第2部は、テレビショッピングでおなじみのジャパネットたかたの元社長・高田明氏の講演を予定しています。

高田氏は以前、佐世保市内でカメラ店を営まれていた時代もあり、弊社にも営業に来られていました。その当時から常に新しいことへのチャレンジを実行されていたように記憶しています。

この研修会の中からひとつでも経営の一助となるよう大会運営してまいりますので皆様のご理解とご協力をお願い致します。

ここでハウステンボスの紹介をさせていただきます。

世界最大規模のイルミネーションで知られる「光の王国」をはじめ、「花」「音楽」と「ハウステンボス歌劇団」などを催されています。今年5月からは「病気になりにくいカラダづくり」がコンセプトで、低カロリーの夕食や早朝散策など健康的な滞在プランを提案するホテルが出来するなど新しい取り組みもされています。ハウステンボスも今回の研修の見どころのひとつです。併せて楽しんで頂けたら幸いです。

総会での皆様との出会いを心待ちにしております。大いに語り、大いに学び、良いところを吸収し合い、交流を深め明日への活力になることを祈念いたします。「前向きにがんばらんば！！」

皆様の多数の参加を組合員一同、心よりお待ちしております。

業界のうごき



第8回販売促進活動懇談会の報告

共生委員長

武宮 兼 敏

平成27年4月22日東京スポーツ会館にて、関東在住のメーカー・卸の方々にお集まり頂き、第8回販売促進活動の懇談会を開催しました。JSERAからは重森理事長及び副理事長4名と共生委員等計10名、メーカー・卸からはアシックス、ミズノを始め計15社の方々に出席頂きました。

重森理事長のあいさつに始まり、自己紹介で会議が始まりました。今回のテーマは「2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて」です。進行を活性化委員長の美馬副理事長にお願いしました。

まず、JSERAから今回の目的は5年企画でスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックを盛り上げる。

方法は組合店もしくはお客様から、写真か作文・俳句を応募し、公平審査による結果から優秀な作品に賞を授与する。

内容は、①スポーツの写真…テーマ「感動」 1人1枚。②スポーツの作文・俳句…テーマ「涙」。応募期間2015年10月10日～11月11日。JSERAの行う取り組み内容を提案し、参加者の意見を求めると、「オリンピック」という言葉が使えない中でも、各競技団体と契約している会社は協力できる。又、今回オリンピックのゴールドパートナーになられたアシックス社に特別の協

力を願いをしたり、ヨネックス社はキッズのイベントを通して盛り上げて行こうと言って頂きました。又、直接ユーザーに求めると同時に各小売店のモチベーションを上げる仕組みも必要ではないかという意見に対して、有名選手に1日店長をしてもらうというのはどうか等々の意見も頂きました。今回の懇談会で、各メーカー・卸の方々から、協力はおしまない、出来る事はしますとありがたい言葉を頂きました。今回を踏まえ、今後も参加頂けるような提案をしていきたいと思います。

スポーツ文化



スポーツの社会的役割と意義

参議院議員

日本スポーツ用品協同組合連合会

顧問 橋本 聖子

20年前に参議院議員に初当選したとき、「アスリートが、なぜ政治家になったのですか」と問われることがありました。しかし、政治経済とスポーツは矛盾するものではなく相乗効果が期待されるものです。競技スポーツの頂点が高くなり活性化すれば、すそ野が広がり、それに伴って新たな需要や高い付加価値が生まれ、スポーツ文化は産業化します。

戦後の日本は、あらゆる主要産業で先進国に追いつき、自動車産業やロボット産業など世界の最先端技術を誇る分野も少なくありません。しかし、スポーツ産業に関しては、欧米先進諸国に比べて著しく見劣りしています。現在、わが国にはスポーツ関連市場が約4兆円存在しているとされていますが、アメリカでは約15兆円ともいわれています。

オリンピックやワールドカップなどを振り返るとアスリートの活躍がもたらす感動は計りしれません。その教育効果の高さ、エンターテインメントとしての社会的影響の大きさは、他の何かで得ることはできないだろうと思います。

2015年度のスポーツ関連予算は、前年度比34億円増の290億円となり、過去最高となりました。「金メダル30個、世界3位」の目標を掲げる2020年オリンピック・パラリンピック東京に向け、日本代表の活動を支援する競技力向上事業費は、前年度比25億円増の74億円が盛り込まれています。強化に関する環境は少しずつ改善されているとはいえ、まだ十分とはいえません。産業を育成するための投資と考えれば、決して高すぎる額ではないはずです。そして、投資するなら、それを積極的に回収しようとするシステムも必要です。文部科学省は競技生活を終えたアスリートが指導者になれるよう各競技団体の専任コーチ設置に助成を行っていますが、実際に採用されるのは、ほんの一握りにすぎませ

ん。学校教育や地域スポーツの拠点においても、こうした人材を活用すべきです。アスリートの引退後のセカンドキャリアが確立されれば、雇用の良循環も生まれます。広く国民が正しい指導を受けてスポーツを楽しむようになれば、食育も推進され、生活習慣病の予防でき、医療費の削減にもつながります。

スポーツの「国際競技力」と「産業としての国際競争力」の向上、そして国民を幸せにする「教育・福祉・エンターテインメント装置としての役割」を考えた場合、競技スポーツの強化を含むスポーツ振興は、国の未来を描く上で重要な政策課題の一つとされるべきです。

わが国では少子高齢化が急速に進んでいます。そして2020年を境に東京の人口さえもピークアウトするといわれています。少子高齢化と人口減少は、世界中の成熟社会がぶつかっている問題です。スポーツ文化をキーワードに健康寿命を延ばし、余暇を充実させ心豊かに生きることは、2020オリンピック・パラリンピック東京が世界に向かって発信すべき、重要なメッセージでもあります。

スポーツの持つ社会的意義に期待が高まる中、10月1日にスポーツ庁が発足します。スポーツ庁は文部科学省の外局として設置され、指導者の海外派遣を支援するスポーツ国際課など5課で構成され、約120人体制でのスタートとなります。これまでのスポーツ施策は学校体育が文科省、障害者・高齢者スポーツは厚生労働省、運動施設整備に関わるのは国土交通省などと所管が分かれ、行政の縦割りが問題視されてきました。そこでスポーツ庁がスポーツ施策を総合的に推進し、司令塔的役割を果たすことになりました。

スポーツ庁発足を機に、スポーツの価値を高め、スポーツは文化であるということを広く国民が共有できるよう努力してまいり所存です。

JSERA 中部ブロック 富山大会を終えて



富山県スポーツ用品協同組合
理事長 吉居 正

6月2日・3日と、富山県高岡市の風光明媚な地、雨晴海岸の「磯はなび」にて中部ブロック協議会富山大会を開催いたしました。皆様、楽しんで頂けたでしょうか？

私ども富山県組合員をとりまく環境は、とても厳しく、とりわけ今年は、7月14日、砺波市のイオンショッピングセンター内に「スポーツオーソリティ」県内2号店、7月16日、小矢部市に「三井アウトレットモール」、8月、立山町に「モンベル直営店」、射水市に「コストコ」と新規大型店のオープンラッシュです。この重苦しい空気の中で私たち組合員は、力を合わせて、何とか中部ブロックの皆様楽しんで頂き、「元気の出る中部ブロック大会」にしようと取組んでまいりました。

定時総会では重森理事長を始め各県理事長からの報告、連絡がそれぞれあり、各県の総会での出席率を高める努力が必要だという意見や、後継者のための青年部の設立の研究についての話題があがりました。

総会では、吉本興業OGで故横山やすしさんのマネージャーを3年間勤められた、大谷由里子氏のエネル



ギッシュな「元気の出る経営」という演題で90分、みっちりお話を聞かせて頂きました。会場の皆様が大笑いの中にも、先生の話で何か「元気」が出て「元気」をいただいたと実感しています。懇親会では、金沢からお呼びした美人2人組の「ミラクル、マーメイド」のマジックショーもはさんで非常に盛り上がりいただけたと感じております。続く二次会、ゴルフコンペともに和やかに進み笑顔で皆様「元気」でお帰り頂けたと思っております。ありがとうございました。

中部ブロック大会の決算は、予定していたとはいえ、富山県組合では相当な赤字になりました。ですが来年は、富山県組合員は、「全中」で力を合わせ頑張るその分稼ごたいと思いますので、皆様、応援、情報交替よろしくお願いします。

北海道・東北 ブロック大会を開催



北海道東北ブロック
会長 松村 善行

6月23日（火）今年は宮城県スポーツ用品協同組合が主管し日本三景の宮城県松島町の絶景の館・大観荘で開催いたしました。JSERA 理事長重森様、東京スポーツ用品工業協同組合D & M・エバニュー・トーエイライト様はじめ在仙メーカー・問屋様に多数参加して頂き開催されました。

北海道から福島までの広範囲なブロックではありますが、

今年度はブロックで全中が開催され、また来年は岩手国体29年には南東北インターハイの開催が予定されており小売店の一層の団結協力が必要な行事が続く三層と共に協力し一丸となり進むことを誓い総会を開催しました。総会では組合運営をイベントのみに頼るのではなく組合独自の取り組みを模索しながら全員で知恵をだし取り組む方針を確認し議題では26年度事業報告、決算報告、27年事業計画、予算書を一部修正のうえ全員一致で承認され終了致しました。今年度の研修会では今後の事業の展開の参考に各種競技団体にスポーツ選手のコンディショニングのサポートを行っている伊藤超短波株式会社に競技選手のリハビリや中高年の方々の身体のケアに医療資格に必要なくとも出来る伊藤超短波の機械を参加者に体験して頂き致しました、その効能を活かし新しいビジネスに活かすヒントになりました。

二部の講演会では元巨人軍の篠塚和典さんの野球観、長嶋監督とのエピソード、子どもの指導など幅広く講和して頂き、メーカー・卸様も多数参加し無事研修会を終了致しました。その後は三層懇親会に移り和やかに終了致しました。



女子会の扉



岡山県運動具商協同組合

三宅直子

(株)栄光スポーツ

6月にある会の全国大会で歴史と伝統の街、京都に行く機会がありまして、そこで印象に残った事を書かせてもらいます。京都は100年企業が一番多い県でもあり、テーマも「伝統と革新～100年企業を目指して～」ということで、400年、450年と世代を繋ぎ永続されている企業の経営者の方々の講演を聞いてきました。弊社、経営理念の社長のミッションが「創業者が築き上げてきた信頼を継承し、後継者を育成、進化させながら100年企業を目指す」と掲げているので100年企業のキーワードは私にとって目から鱗の話ばかりで。特に老舗の当主によるパネルディスカッションの世代交代の中で、変化させていくもの、守るものは何か?という問いに一番印象に残ったのが、創業160年続く和傘の五代目の当主の話でした。一年間に100万しか売れなかった奥さんの会社を引き継ぎ、京都で和傘を製造している最後の企業として和傘は創業者のルーツであり、絶対に守り続けなければならないもの、変化させていくものは、和傘の素材を利用して照明デザインを手掛け、ホテルや商業施設、そして海外にも進出して新たな事業領域を広げています。永続している企業は創業の精神や自分達のルーツを大切にしながら革新的な経営を行

い、時代の変化に合わせて、経営者もその変化を楽しみながら進化していく事が大切であると感じました。今後永続していくのは「ブランド力」「人財力」「地域からの応援」の三つを備えた企業であり、目には見えない社会貢献があつてこそ、物が売れる時代であると言われたのが心に残りました。京都の伝統と商い、奥が深いです。

追伸・翌朝は、趣味のランニングで京都駅から嵐山まで京都散策楽しんできました♪

留美子のこぼし話

その日は天候も穏やかで絶好のゴルフ日和。仲間同士のコンペでたまたま3位(10名しかいない)に入賞し現金4,000円ゲット!

やったー\ (o^o^)/ 久々に貰えました。

さあ仕事に戻らなくちゃと車のエンジンスイッチオン!あと10分くらいで店に到着。途中の本線に合流するところで、一時停止をしなかった私は、若いお巡りさんたちに「いらっしやーい。」と、誘われるがまさに道路脇に停車。

おまわりさん「一時停止の標識見えなかったの?」そうなんです、私いつも左右見ながら止まらず運転していたのです。(そこの検問はいつも捕まっているのを横目で見ていたんですよ)「それでは、5日後までに7,000円お支払いください。」と、切符を渡されました。結局その日は、4,000円-7,000円=3,000円の赤字

皆さん、くれぐれもいいことがあつた日はご用心を!



卓球の問題点



唐橋卓球株式会社

大宮 敏裕

●タマス社価格改定とオープン価格の問題

今年の2月21日よりタマス社一部のラケット、ラバーのメーカー希望小売価格がオープン価格に変わりました。3月から5月にかけて弊社のテナジー出荷枚数は昨年に比べ減少しました。卓球専門店やスポーツ店でラバー売上状況を聞くと、テナジーの売上枚数は減ったという声があります。今までテナジーを購入していた一部のユーザーにおいては、フォア面はテナジーで、バック面は他のラバーに変える、などの意見もある一方で、他のラバーで試してみたが、やはりテナジーに戻す、という声も聞こえてくる。

オープン価格は、すでに卓球業界として、ジュウイック社やドニックジャパン社が取り入れております。今回

のタマス社の一部ラケット、ラバーのオープン価格展開については、さまざまな意見がありますが、販売価格競争の歯止めになればとの期待感もあると思います。

●卓球台送料値上げの問題

4月より卓球台送料が見直しになり値上がりしました。

- ・タマス社 本州 6,000 円
- ・ニッタク社 本州 9,000 円～ 9,500 円
- ・ヤサカ社 本州 8,000 円～ 9,500 円
- ・ヤマト卓球 本州 8,000 円～ 9,000 円
- ・ユニバー社 本州 8,000 円～ 9,500 円
- ・三英社 本州 8,000 円～ 9,500 円

現在一部の運送会社しか卓球台を取り扱わなくなっている現状と、近年運送会社の運賃値上げからすれば致し方ない問題かもしれません。各メーカーとしても運んでくれる運送会社がなければ、卓球台自体を販売できなくなってしまう、という危機的な状況かも知れません。



栃木県スポーツ用品販売協同組合

理事長 石崎 照雄

●プラスチックボールの問題

6月2日、三県合同総会（群馬、埼玉、栃木）が栃木県主幹で行われました。研修会の講演者に今、話題、「地域密着繁盛店のつくり方」の本を発刊されました足利市、アベスポーツ阿部貴行様をお願い致しました。その話の中で店の成り立ち（歴史）を知っておいた方がいいですよと言っておりました。

私の店は、創業昭和21年4月。その前に曾祖父が東京でセルロイド素地の問屋をやっていたそうです。当

時 KP ボールという卓球メーカーがあって又、N社の前身でありますハーター商会にも生地を卸していたと母から聞いております。そんな事で当社は古くから関わっておりました。でも、38mmから40mmになった時に比べて、プラスチックボールがメーカーごとにこんなに違いがあるとは思いませんでした。N社は国産で他のボールはすべて中国産です。中国2大メーカーで世界のボールのすべてが作られているのです。又生地の素材も違います。そして驚くことに生産が間に合わなくなって市場にはほとんどない状態で大会に行き初めてプラスチックボールを手にする事になる方が多いのです。

日本では1月の全日本から使用球に成りましたが、割れが多くお客様にだいたい何度も怒られました。価格が上がったのに早く何とかして欲しいものです。

高知県スポーツ用品小売商協同組合

吉田 雄三

(有)ヨシダスポーツ

●卓球専門店（ジャスポ）のネット広告の問題

県名と卓球専門点を同時に入力し検索すると、必ずどの県を開いてもまず、「激安卓球専門店・ジャスポ」の表示から始まる。

この「ジャスポ」は、どの県にも実在せず、実際は愛媛県だけにしか存在しない。卓球公認工業会の会員のリンク先にも「愛媛県のジャスポ」として紹介されている。

もし広告のように各県に存在するのであれば工業会の会員リンク先も同時にすべきである。あたかも各都道府県に存在しているかの様な過大広告が、このまま見逃されていて良いのか疑問である。

第16期 第7回理事会報告

日時：平成27年4月23日(木) 11:00～16:30

場所：ゼット(株)東京支店 7階会議室

<報告事項>

1. 理事長報告

[4月22日] 第8回販売促進活動懇談会に出席

2. 委員会報告

<共生委員会>

武宮委員長

- ・4月22日東京にて第8回販売促進活動懇談会を開催。16社の出席があり、オリンピックをどう盛り上げるかをテーマに意見交換した。

<広報委員会>

松村委員長

- ・JSERAレポート72号(4月20日発行)発行。
- ・JSERAレポート73号(7月20日発行)はブロック総会の報告をテーマに作成予定。

<事業委員会>

角前委員長

- ・シャトルコックや軟式野球ボールをJSERA商品にできないか、ボールメーカー全社に相談中である。

<審議事項>

1. 全国大会(長崎県)の件

- ・長崎県の森 彰夫理事長、三岳和明氏、近藤幸男氏より資料を基に説明があった。
- ・今回のホテル内会場は、1か所のため女性フォーラムの開催方法などについて話し合われた。ホテルの都合と合わせて再検討する。
- ・JSERA年間スローガンは、16案の中から“拡げよう絆 深めよう組織力!”に決定。
(基本的な部分は全員一致で承認)

2. 全国理事長会議の収支報告の件

- ・資料の通り。
(全員一致で承認)

3. 次期全国理事長会議日程の件

- ・3ホテルを検討した結果、今期と同じ“ニューオーサカホテル”で開催することに決定。
日程は2月1日全国理事長会議、2日JSEC連絡会議。大阪見本市は2月2・3日開催。
- ・見本市のJSERAブースの展示は、活性化委員会の美馬副理事長、笹渕理事が行い撤収は、最終日に前田理事が行う。
(全員一致で承認)

4. ボールを贈ろう事業の件

- ・昨年と同様で各県への補助金はJSERAと卸組合からで17,000円とする。
- ・各県行政と話し合い、アピールして実行していただきたい。
(全員一致で承認)

5. ホームページの件

- ・現在のホームページには、ラインパウダー無害くんについての資料が掲載されていない。出来るだけ費用を抑え、掲載できるよう検討した結果、トップページのプロギア
- ・アイガードのバナーを無害くんに変更し、掲載することとし現在のチラシは古いので新しく作成する。プロギア・アイガードは事業内容から閲覧できる様にする。
(全員一致で承認)

<協議事項>

1. 「2020年オリンピック」への取組みについて

- ・オリンピックマークを付けたアシックス商品をJSERAで扱えるように交渉していく。
取扱商品として、スタッフ用・販売用ウェアやのぼり旗等を検討していく。
早い段階から取り組んでいく。

2. 地域スポーツ用器具優良小売店制度の今後に向けて

- ・資料を基に説明。

3. その他

- ・(株)シースカイ 代表取締役 岡 二郎氏よりJSERA商品として取り扱えないかと提案があり商品説明があった。
- ・サンプルを使用し、次回理事会にて審議することとする。
- ・商品内容：スーパートリノブレスレット(ネックタイプ)、インソール、パワーバランスシール

「お知らせ」

・「ラインパウダー無害くん」

パッケージ記載住所訂正について

記載住所が旧住所となっておりました。順次、新パッケージに切り替えておりますので宜しくお願い致します。

変更前

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町1丁目8番6号
フタバビル3F

変更後

〒111-0053

東京都台東区浅草橋5丁目8番6号
東京スポーツ会館301号室



オリンピック こぼれ話し(7)

事業委員長 角 前 博 道

1980年モスクワ五輪の閉会式、後継のサマランチ氏にバトンを渡した第6代IOC会長、キラニン卿の言葉は「世界のスポーツ関係者に懇願する。平和の為に結束して欲しい」と1976年モントリオール大会の大赤字そしてモスクワ大会のボイコット等、近代五輪は深刻な存亡の危機に直面していたからであります。選挙に向けた思惑もあって、カーター政権が提唱したモスクワ五輪ボイコット、今度はその次のロサンゼルス五輪では旧ソ連陣営が報復に動く。この時崩壊に追いつめられた2人の会長の政治への接触は、180度違ってたと云われています。キラニン卿は、政治の五輪への不介入の思想を信ずるあまり、カーター政権の圧力に憤りを示し、カーターは「野球とアメフトが五輪種目だったらボイコットしないだろう。」と批判に終始していた。一方、サマランチ氏は、銀行家であり又外交官でもあったので、とことん現実派であった。そして形振りかまわず精力的に世界を飛び回り、ロス五輪のボイコット回避を働きかけた、アンドロポフ書記長の急死がなかったら成功していたかもしれません。「スポーツは決して政治から独立したものではない。」一民間団体に過ぎないIOCが財力をつけ、政治と渡り合う影響力を持った上で、逆にこちらから政治に働きかける。国連との提携、又五輪停戦提唱等々。近代五輪は全く幸運にも、五輪生き残りの為理想をすて清濁併せ呑むことの出来るサマランチ氏が正にその時会長職に就いていたからと云えるのではないのでしょうか。現代版の五輪停戦はバルセロナ五輪への旧ユーゴ選手の参加を保証する方便として始まった。国連安保理が旧ユーゴ制裁項目にスポーツを加えた為、バルセロナ五輪への参加が危ぶまれました。その時サマランチ氏は国連に働きかけ期間中の五輪停戦を訴え、五輪旗の下で個人参加の道を開くことに成功する。その次以後、IOCは五輪ごとに開催の前年に働きかけ「五輪停戦決議」の採決を勝ち得る。リレハンメル冬季五輪では、一日だけ旧ユーゴ紛争の当事者らに実際に停戦を実現させることに成功した。「五輪の発展強化にとって、政治との緊密な関係は、必要不可欠だ。」と元キダン五輪事務局長は云う。現

実路線のサマランチ氏を変えた五輪と政治の協調関係は、特に緊張もはらみながら、進みつつある。

さてこの「オリンピックこぼれ話し」シリーズの最後として、2013年9月7日土曜日、冬のブエノスアイレスにて、東京2020年五輪決定に関する物語を書いて、終りとします。

今回東京に決定する前に、日本は2回夏季大会の開催に失敗しています。それは、88年第24回夏季大会に立候補した名古屋市と2008年大会に、立候補した大阪市です。まず前者の名古屋招致ですが、当時愛知県知事だった中谷氏である。この開催招致に積極的な姿勢を示したのは、名古屋青年会議と云われています。間もなく名古屋商工会議所、名古屋市(当時本山市長)も賛同し、話しがトントン拍子に進んで行く。招致の諸準備を進めるべくオリンピック協議会を立ち上げ79年秋には名古屋市長、愛知県、岐阜県、三重県の四人の知事の連名による「招致申請書」をJOCに提出しすぐ承認される。ところがこの立候補申請書の提出が、それから1年1ヶ月後の80年11月になる。なぜこの様なことが起ったか?それは、前にも書いた様にカーター米大統領のモスクワ五輪ボイコットに同調して欲しいと云う呼びかけに日本としては、耳を傾けざるを得なかったと云うことです。やっとのことで、88年夏季大会の開催に立候補します。その時、立候補したのは最終的に名古屋とソウルの2都市だけで、アジアの2都市の争いとなりました。その時大方の予想では「名古屋の勝」と思われていた様です。その理由は、「朝鮮半島は二分されている。ソウルに決まるはずがない」と。

(次号へつづく)

● 編集後記 ●

「イチローの成功習慣に学ぶ」という本を読んだ。イチローの用意周到ぶりはすごい。野球少年時代から、必ず試合前に球場の下見をしていた。時には遠足の下見にも出かけたほどです。「小さいことほどきちんとこなせ」。努力は意欲ではなく習慣の問題です。簡単なことほど奥が深いし、単純なことこそ難しい。雑事は雑事ではありません。雑用は、それを雑に扱った時に雑用になるのであって、それを丁寧に扱えば「仕事」になるのです。イチローは「がんばる」「一生懸命」という言葉を口にしません。プロにとって当たり前、わざわざ表明するほどの事ではないのでしょうか。(K.S)